

平成18年度春夏作芝関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成18年度春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成18年11月29日(水)に東京ガーデンパレスにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者16名、委託関係者54名ほか、計82名の参集を得て、除草剤24薬剤(185点)、生

育調節剤3薬剤(23点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成18年度 春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種・類 新・継 の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/㎡ ・処理方法	判定	判定内容 アンダーラインは拡大内容
1. B-3015乳 ベンチカーブ 90% [クミアイ化学工業]	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 鳥取園試 西日本G研 (3)	[一年生イネ科雑草] ・雑草発生前 ・0.4, 0.6, 0.8g<200-300> ・土壌処理	継	継) 効果、薬害の確認
2. BES-001顆粒水和 エートスルフロニメチルトリウム 塩 1.25%, エトキシスルフロニ 12.5% [ハ・イエル クロップ サイエ ンス]	コウライシ ハ	適用性 継続	泉ハークワンGC 勝田GC リハ-富士CC 新中国G研 西日本G研 (5)	[広葉雑草] ・雑草発生前 ・0.1, 0.15, 0.2g<200-300> ・土壌処理 対)インフ-ルDF 0.03g<200-300>	実・ 継	新たに実用化可能 実) [(コウライシハ、ノシハ) 広葉雑 草] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.1~0.2g<200~300mL> ・土壌処理 継) ・倍量薬害試験での確認(コウライ シハ、ノシハ) ・連用試験での確認(コウライシハ、ノ シハ) ・実証試験での確認(コウライシハ、ノ シハ)
	ノシハ	適用性 継続	泉ハークワンGC 東日本G研 勝田GC 新中国G研 宮崎CC (5)	[広葉雑草] ・雑草発生前 ・0.1, 0.15, 0.2g<200-300> ・土壌処理 対)インフ-ルDF 0.03g<200-300>		
3. BES-002フロアブル オキサジクロメチン 15%, オキサジアルギル 17% [ハ・イエル クロップ サイエ ンス]	コウライシ ハ	適用性 継続	泉ハークワンGC 勝田GC リハ-富士CC 新中国G研 門司GC (5)	[一年生雑草] ・雑草発生前 ・0.1, 0.15, 0.2mL<200-300> ・土壌処理 対)ウェイアップ 0.5g<200-300>	実・ 継	コウライシハ、ノシハともに薬量幅変更 可能 実) [(コウライシハ、ノシハ) 一年生雑 草] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.1~0.2mL<200~300mL> ・土壌処理 継) ・0.2mLでの薬害について年次変 動の確認(コウライシハ、ノシハ) ・倍量薬害試験での確認(コウライ シハ、ノシハ) ・連用試験での確認(コウライシハ、ノ シハ) ・実証試験での確認(コウライシハ、ノ シハ)
	ノシハ	適用性 継続	泉ハークワンGC 東日本G研 勝田GC 新中国G研 西日本G研 (5)	[一年生雑草] ・雑草発生前 ・0.1, 0.15, 0.2mL<200-300> ・土壌処理 対)ウェイアップ 0.5g<200-300>		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは拡大内容
4. BES-0449 顆粒水和 既知化合物 70% [ハ'イェル クロップ'サイエン ス]	ベ'ントグ'ラ ス	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[藻類] ・ 藻類発生始 ・ 2.0, 2.5, 3.0g<500> ・ 茎葉処理 対)ゴ'ーレット 2.0g<500>	継	継) 効果、葉害の確認
	ベ'ントグ'ラ ス	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 西日本G研 (3)	[藻類] 反復処理 ・ 藻類発生始→再発生直後 ・ 2.0g→2.0g<500→500> ・ 茎葉処理 単用処理 ・ 藻類発生始 ・ 2.0, 3.0g<500> ・ 茎葉処理 対)ゴ'ーレット 2.0g<500>		
5. DEH-118 顆粒水和 イソキサベン 60%, フロラスラム 4% [タ'ウ・ケミカル日本]	ケンタッキー ブ'ルグ'ラ ス	作用性 継続	グ'ランディ那須GC36 東日本G研 (2)	[連用薬害] ・ H17春→H17秋→H18春→H18秋 ・ 雑草発生初期 ・ 0.05g<150-200> ・ 土壌処理 ・ 展着剤加用	実・ 継	前年どおり 実) [(コウライシハ', ノシハ', ケンタッキーブ'ルグ'ラ ス) 広葉雑草] ・ 芝生育期、 雑草発生初期 (3 葉期まで) ・ 0.03~0.05g<150~200mL> ・ 土壌処理 継) ・ 連用試験の継続 (ケンタッキーブ'ルグ'ラ ス) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ', ノシ ハ', ケンタッキーブ'ルグ'ラ ス)
6. DH-023 顆粒水和 ベ'ントグ'ラ 30% [日本曹達]	ケンタッキー ブ'ルグ'ラ ス	適用性 継続	泉ハ'ークタウンGC 東日本G研 那須ナセー (3)	[一年生イネ科雑草 (スズ'メノカタビ'ラ主 体)] ・ 雑草発生初期 (スズ'メノカタビ'ラ3Lまで) ・ 0.15, 0.2, 0.3g (100-200) ・ 茎葉処理	実・ 継	ケンタッキーブ'ルグ'ラスへの拡大可能。 ベ'ントグ'ラスのメシハ' 拡大は継続。 実) [(ベ'ントグ'ラ ス, ケンタッキーブ'ルグ'ラ ス) スズ'メノカタビ'ラ] ・ 芝生育期、 雑草発生初期 (3 葉期まで) ・ 0.2~0.3g<100~200mL> ・ 茎葉処理 注) ベ'ントグ'ラ スの活性が低い場 合には、葉害を生じることが ある 継) ・ <u>メシハ' に対する効果の確認</u> (ベ'ントグ'ラ ス, ケンタッキーブ'ルグ'ラ ス) ・ 低薬量の効果の確認 (ベ'ントグ'ラ ス) ・ 倍量薬害試験での確認 (ベ'ントグ' ラ ス, ケンタッキーブ'ルグ'ラ ス) ・ 連用試験での確認 (ベ'ントグ'ラ ス, ケ ンタッキーブ'ルグ'ラ ス) ・ 実証試験での確認 (ベ'ントグ'ラ ス, ケ ンタッキーブ'ルグ'ラ ス)
	ベ'ントグ' ラ ス	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 関西G研 新中国G研 西日本G研 (5)	[一年生イネ科雑草 (メシハ' 主体)] ・ 雑草発生初期 (メシハ' 1-2Lまで) ・ 0.15, 0.2, 0.3g (100-200) ・ 茎葉処理		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容 アングラーインは拡大内容
7. DH-024顆粒水和 フルボキサム 50% [日本曹達]	コウライシ ハ [*]	作用性 継続	植調研究所 西日本G研 (2)	[連用薬害] ・ H17春→H17秋→H18春→H18秋 ・ 雑草発生前 ・ 0.3g<200-300> ・ 土壌処理	実 ・ 継	従来どおり 実) [(コウライシハ [*] , ノシハ [*]) 一年生雑 草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.15~0.3g<200~300mL> ・ 土壌処理 継) ・ 倍量薬害試験での確認(コウライ シハ [*] , ノシハ [*]) ・ 連用薬害試験の継続(コウライシ ハ [*] , ノシハ [*]) ・ 実証試験での確認(コウライシハ [*] , ノ シハ [*])
	ノシハ [*]	作用性 継続	東日本G研 新中国G研 (2)	[連用薬害] ・ H17春→H17秋→H18春→H18秋 ・ 雑草発生前 ・ 0.3g<200-300> ・ 土壌処理		
8. DPX-F6025 顆粒水 和 クロリアロンエチル 25% [丸和ハ [*] イオケミカル、デュ ボン]	コウライシ ハ [*]	適用性 新規	東日本G研 (2) 勝田GC 植調研究所 新中国G研 西日本G研 (6)	[広葉雑草] ・ 雑草生育期 ・ 0.02, 0.03, 0.04g<200> ・ 茎葉処理 対) イングラーD.F. 0.03g<200>	実 ・ 継	コウライシハ [*] での処理時期および薬 量拡大可能 実) [(コウライシハ [*]) 広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草生育期 0.02~0.04g<200mL> 茎葉処理 ・ 芝生育期、 雑草発生揃～発生初期 0.01~0.015g<150~200mL> 茎葉処理 (コウライシハ [*] のヒメグサ [*] , ハマス [*] 及びノ シハ [*] は従来通り) 継) ・ 広葉雑草生育期の効果、薬害 について、年次変動の確認(コウ ライシハ [*]) ・ 倍量薬害試験での確認(コウライ シハ [*]) ・ 連用薬害試験での確認(コウライ シハ [*]) ・ 実証試験での確認(コウライシハ [*])
9. FUIN-2微粒 (旧BJL-861) ダゾメット 98% [アグロケネショウ]	コウライシ ハ [*]	適用性 継続	茨城園研 鳥取園試 (2)	[一年生雑草] ・ 播種または植付3週間前 ・ 30kg/10a ・ 土壌混和処理(全面散布→土 壌混和→ビニール被覆または鎮 圧→7-14日間放置→ガス抜 き(耕起2回以上)→芝播種ま たは植付)	実 ・ 継	新たに実用化可能 実) [(コウライシハ [*] , ノシハ [*]) 一年生雑草] ・ 植付3週間前まで ・ 30g/m ² ・ 土壌混和処理(土壌に本剤の 所定量を加え十分混和した後 ビニール等での被覆または鎮圧す る。7~14日後被覆を除去して 耕起によるガス抜きを行う。) [バントグラス [*] 一年生雑草] ・ 播種3週間前まで ・ 30g/m ² ・ 土壌混和処理(土壌に本剤の 所定量を加え十分混和した後ビ ニール等での被覆または鎮圧する。
	ノシハ [*]	適用性 継続	茨城園研 鳥取園試 (2)	[一年生雑草] ・ 播種または植付3週間前 ・ 30kg/10a ・ 土壌混和処理(全面散布→土 壌混和→ビニール被覆または鎮 圧→7-14日間放置→ガス抜 き(耕起2回以上)→芝播種ま たは植付)		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草:ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは拡大内容
FUIN-2微粒つづき	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 (2)	[一年生雑草] ・ 播種または植付3週間前 ・ 30kg/10a ・ 土壌混和処理 (全面散布→土 壌混和→ビニール被覆または鎮 圧→7-14日間放置→ガス抜 き (耕起2回以上) →芝播種ま たは植付)		ニール等での被覆または鎮圧する。 7-14日後被覆を除去して耕起 によるガス抜きを行う。 (継) ・ ケンタッキーブルーグラスでの効果、薬 害の確認 ・ 倍量薬害試験での確認 (コライシ ハ、ノシバ、ベントグラス、ケンタッキーブ ルグラス ・ 実証試験での確認 (コライシハ、ノ シバ、ベントグラス)
10. GG-180粒 シアナジン 1%, DBN 0.5% [日本グリーンアンドカー デン]	コライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 雑草発生前 ・ 20, 30, 40g ・ 土壌処理 対)ベンボール粒剤 15g	継	(継) 効果、薬害の確認
	コライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 雑草発生初期 ・ 20, 30, 40g ・ 土壌処理 対)ベンボール粒剤 15g		
11. GG-181粒 シアナジン 1%, DBN 0.5% N:P:K:Mg=12:8:7:3 [日本グリーンアンドカー デン]	コライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 雑草発生前 ・ 20, 30, 40g ・ 土壌処理 対)テマックス粒剤 30g	継	(継) 効果、薬害の確認
	コライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 雑草発生初期 ・ 20, 30, 40g ・ 土壌処理		
12. GG-182粒 シアナジン 1%, メコプロップPカリウム塩 1% [日本グリーンアンドカー デン]	コライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 植調研究所 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 雑草発生前 ・ 20, 30, 40g ・ 土壌処理 対)ベンボール粒剤15g	継	(継) 効果、薬害の確認
	コライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 植調研究所 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 雑草発生初期 ・ 20, 30, 40g ・ 土壌処理 ・ 対)ベンボール粒剤15g		
13. HCW-102粒 シアナジン 5%, DCBN 2.5% [保土谷化学工業] HCW-102粒つづき	コライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 佐野GC 新中国G研 西日本G研 (5)	[一年生雑草、スギナ] ・ 雑草発生初期 (イネ科雑草3葉期) ・ 10, 15, 20g ・ 土壌処理	継	(継) 効果、薬害の確認
	ノシバ	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 佐野GC 新中国G研 西日本G研 (5)	[一年生雑草、スギナ] ・ 雑草発生初期 (イネ科雑草3葉期) ・ 10, 15, 20g ・ 土壌処理		
	ノシバ	適用性 新規	東日本G研 佐野GC 新中国G研 (2) 西日本G研 (5)	[メリケンカサヤ] ・ 雑草生育期 ・ 0.75, 1.5g/株 ・ ストット処理		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容 アンダーラインは拡大内容
14. NFK-062水和 8-ヒド'ロキシノリン銅 80% [日本農薬]	ベ'ントク ラス	適用性 新規	東日本G研 武蔵の杜CC 新中国G研 西日本G研 (4)	[コ'類] ・ コ'類発生前～発生始期 ・ 2.5g単用, 2.5g×2回, 2.5g×3 回<200> (散布間隔14日) ・ 土壌処理 対)ト'ウ'リン水和剤2.5g 単用<200>	継	継) 効果、薬害の確認
15. NHK-06170ア'ル ビ'ラフルフェンエチル 2% [日本農薬]	ベ'ントク ラス	適用性 新規	東日本G研 武蔵の杜CC 新中国G研 西日本G研 (4)	[コ'類] ・ コ'類生育期 ・ 0.1mL単用, 0.2mL単用, 0.1mL ×2回<100-200> ・ 茎葉処理	継	継) 効果、薬害の確認
16. NHK-061+NFK-062 70ア'ル+水和 ビ'ラフルフェンエチル 2%, 8-ヒド'ロキシノリン銅 80% [日本農薬]	ベ'ントク ラス	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	[コ'類] ・ コ'類生育期→再増殖始期 ・ NHK-061:0.1mL<200>→ NFK-062:2.5g×1-2回<200> ・ NHK-061:0.2mL<200>→ NFK-062:2.5g×1-2回<200> ・ 茎葉処理→土壌処理	—	
17. NOJ-120顆粒水和 トリフロキシメ'フロンナトリウム塩 72% [シン'ジェ'タ' ジ'ャ'ハ'ン]	ハ'ーミュー ダ'グ'ラス	作用性 新規	新中国G研 西日本G研 (2)	[連用薬害] ・ H18春→H18秋→H19春→H19秋 ・ 雑草発生初期 (3葉期まで) ・ 0.006g<150-250> ・ 茎葉兼土壌処理	実 ・ 継	ハ'ーミュー'ダ'グ'ラスへの拡大可能。コ'ウ イ'ハ', ノ'シ'ハ' は前年どおり。 実) [(ハ'ーミュー'ダ'グ'ラス) 一年生雑 草] ・ 芝生育期、 雑草発生初期～生育期 (5葉期まで) ・ 0.003～0.006g<150～250mL>。 ・ 茎葉兼土壌処理 継) ・ 倍量薬害試験での確認 (ハ'ーミュー ダ'グ'ラス) ・ 連用薬害試験の継続 (ハ'ーミュー'ダ' グ'ラス) ・ 実証試験での確認 (ハ'ーミュー'ダ' グ'ラス) (コ'ウイ'シ'ハ', ノ'シ'ハ' は従来通り) [(コ'ウイ'シ'ハ', ノ'シ'ハ') 一年生雑 草、ヒメ'ク'ガ'] ・ 芝生育期、 雑草発生初期～生育期 (5葉期まで) ・ 0.003～0.006g<150～250mL>
	コ'ウイ'シ'ハ'	適用性 継続	新中国G研 西日本G研 (2)	[チ'ガ'ヤ] ・ 雑草生育期 (萌芽後の生育期～出穂前) ・ 0.003, 0.0045, 0.006g <150-250> ・ 茎葉兼土壌処理 ・ 展着剤加用		
	ノ'シ'ハ'	適用性 継続	新中国G研 西日本G研 (2)	[チ'ガ'ヤ] ・ 雑草生育期 (萌芽後の生育期～出穂前) ・ 0.003, 0.0045, 0.006g <150-250> ・ 茎葉兼土壌処理 ・ 展着剤加用		
	ハ'ーミュー ダ'グ'ラス	適用性 継続	浜松シ'サイト' GC 花屋敷GC 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 雑草発生初期 (3葉期まで) ・ 0.003, 0.0045, 0.006g <150-250> ・ 茎葉兼土壌処理		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容 アングラーインは拡大内容
NOJ-120顆粒水和 つづき	ハーフ・ミュー ダグラス	適用性 継続	浜松サイード GC 花屋敷GC 新中国G研 西日本G研 (4)	[一年生雑草] ・ 雑草生育期 (5葉期まで) ・ 0.003, 0.0045, 0.006g <150-250> ・ 茎葉兼土壌処理		・ 茎葉兼土壌処理 [(コウライシバ、ノシバ) スズメノヒ 類] ・ 芝生育期、雑草生育期 ・ 0.0045~0.006g<150~200mL> ・ 茎葉処理 [(コウライシバ、ノシバ) チカヤ] ・ 芝生育期、 雑草生育期 (出穂前) ・ 0.003~0.006g<150~250mL> ・ 茎葉処理 注) チカヤは生育を抑制される が、完全枯死には至らない。 継) ・ スズメノヒ類に対する低薬量で の効果の確認(コウライシバ、ノシバ) ・ 倍量薬害試験での確認(コウライ シバ、ノシバ)
18. NP-63液 メコプロップ P 52% [日本曹達]	コウライシ バ	適用性 継続	太平洋C美野里C 新中国G研 (2)	[広葉雑草、スギナ] ・ 雑草生育期 ・ 0.2, 0.25, 0.5mL<200> ・ 茎葉処理	実	前年どおり 実) [(コウライシバ、ノシバ、ケンタッキー ブルーグラス) 広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草生育期。 ・ 0.2~0.5mL<200mL>。 ・ 茎葉処理。
	ノシバ	適用性 継続	太平洋C美野里C 西日本G研 (2)	[広葉雑草、スギナ] ・ 雑草生育期 ・ 0.2, 0.25, 0.5mL<200> ・ 茎葉処理		
	ケンタッキ ーブルーグ ラス	適用性 継続	札幌国際CC 格蘭ディ那須GC36 (2)	[広葉雑草、スギナ] ・ 雑草生育期 ・ 0.2, 0.25, 0.5mL<200> ・ 茎葉処理		
19. OKUF-001水和 オキサホ・コナゾールフルマル酸塩 2.5% マンベブ 65% [クミアイ化学工業]	ヘントク ラス	適用性 継続	東日本G研 関西G研 西日本G研 (3)	[藻類] ・ 藻類生育期 ・ 3g単用, 3g×2回<500> (体系は、藻類発生始期→ 再増殖始期または処理後14日) ・ 茎葉処理 対) コーレット水和2g<500>	実・ 継	新たに実用化可能 実) [(ヘントグラス) 藻類] ・ 芝生育期、藻類発生期 ・ 3g<500mL> 1~2回 ・ 土壌処理 継) ・ 倍量薬害試験での確認 ・ 連用薬害試験での確認 ・ 実証試験での確認
20. RGH-0601粒 ベンチ・イメタリン 0.86% N:P:K=25:5:10 [理研グリーン]	コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[倍量薬害] ・ 雑草発生前 ・ 25, 50g ・ 土壌処理 ・ 散布後に散水する	継	(継) 効果、薬害の確認
	ノシバ	作用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[倍量薬害] ・ 雑草発生前 ・ 25, 50g ・ 土壌処理 ・ 散布後に散水する		

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容 アングラーインは拡大内容
RGH-0601粒つづき [委託者]	コウライシ ハ	適用性 新規	泉ハークワンGC 東日本G研 宇都宮大学 関西G研 新中国G研 西日本G研 (6)	[一年生雑草(サ科を除く)] ・ 雑草発生前 ・ 20, 22.5, 25g ・ 土壌処理 対) プロジアミン肥料30g		
	ノシハ	適用性 新規	格蘭ディ那須GC36 東日本G研 宇都宮大学 関西G研 新中国G研 西日本G研 (6)	[一年生雑草(サ科を除く)] ・ 雑草発生前 ・ 20, 22.5, 25g ・ 土壌処理 対) プロジアミン肥料30g		
	コウライシ ハ	実証 新規	大宝塚GC (1)	[一年生雑草(サ科を除く)] ・ 雑草発生前 ・ 22.5g ・ 土壌処理		
	ノシハ	実証 新規	クリアビューGC (1)	[一年生雑草(サ科を除く)] ・ 雑草発生前 ・ 22.5g ・ 土壌処理		
21. SL-160水和 フラザスルホン 10% [石原産業]	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研 (3)	[スズメノヒエ類 ・ 雑草生育期(株径15cm以下) ・ 0.05, 0.075, 0.1g<150-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用 対) モニュメント顆粒水和剤 0.0045g<150-200>	実 ・ 継	コウライシハ、ノシハでのスズメノヒエへの 拡大可能。ハーマーダググラスへの拡大可能。 実) [(コウライシハ、ノシハ)スズメノヒエ] ・ 芝生育期、 雑草生育期(株径15cm以下) ・ 0.1g<150~200mL> ・ 茎葉処理 注) 展着剤を加用する [(ハーマーダググラス)一年生雑草、 多年生広葉雑草、ヒメクサ] ・ 芝生育期、 雑草発初期 ・ 0.025~0.05g<150~200mL> ・ 茎葉処理 注) 展着剤を加用する (コウライシハ、ノシハの上記以外の判定内容は従来通り) 継) ・ スズメノヒエに対する低薬量での効果の確認(コウライシハ、ノシハ) ・ 一年生イネ科雑草に対する年次変動の確認(ハーマーダググラス)
	ノシハ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研 (3)	[スズメノヒエ類] ・ 雑草生育期(株径15cm以下) ・ 0.05, 0.075, 0.1g<150-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用 対) モニュメント顆粒水和剤 0.0045g<150-200>		
	ハーマー ダググラス	適用性 継続	浜松サイトGC 関西G研 花屋敷GC 新中国G研 (4)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草、ヒメクサ] ・ 雑草発初期 ・ 0.025, 0.0375, 0.05g <150-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用		
22. SL-160顆粒水和 フラザスルホン 25% [石原産業]	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 植調研究所 ハーフ富士CC 関西G研 新中国G研 門司GC (6)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草、ヒメクサ] ・ 雑草発初期 ・ 0.01, 0.015, 0.02, 0.03g <100-200> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤加用 対) シバゲン水和剤 0.025g <150-200>	実 ・ 継	新たに実用化可能 実) [(コウライシハ、ノシハ)一年生雑草、 多年生広葉雑草] ・ 芝生育期、 雑草発初期 ・ 0.01~0.02g<100~200mL> ・ 茎葉処理 注) 展着剤を加用する

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/㎡ ・処理方法	判 定	判定内容 アングラーラインは拡大内容
SL-160顆粒水和 つづき	ノシバ	適用性 新規	植調研究所 那須ナセー 南長野GC 関西G研 新中国G研 宮崎CC (6)	[一年生雑草及び多年生広葉雑 草、ヒメグサ] ・雑草発生初期 ・0.01, 0.015, 0.02, 0.03g <100-200> ・茎葉処理 ・展着剤加用 対)シバゲン水和剤 0.025g <150-200>		継) ・年次変動の確認(コウライシバ、ノシバ) ・高薬量での効果、薬害の確認(コウライシバ、ノシバ) ・ヒメグサ、ハマスガに対する効果の確認(コウライシバ、ノシバ) ・倍量薬害試験での確認(コウライシバ、ノシバ) ・連用薬害試験での確認(コウライシバ、ノシバ) ・実証試験での確認(コウライシバ、ノシバ)
	コウライシバ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[ハマスガ] ・雑草発生初期 ・0.02, 0.03, 0.04g<100-200> ・茎葉処理 ・展着剤加用 対)シバゲン水和剤 0.05g <150-200>		
	ノシバ	適用性 新規	東日本G研 西日本G研 (2)	[ハマスガ] ・雑草発生初期 ・0.02, 0.03, 0.04g<100-200> ・茎葉処理 ・展着剤加用 対)シバゲン水和剤 0.05g <150-200>		
23. SYJ-1947アブガル ブロンアミン 40% [シンジエンタジヤパン]	コウライシバ	適用性 新規	泉パークタウンGC 東日本G研 埼玉スタジアム2002 新中国G研 門司GC (5)	[一年生雑草(科科を除く)] ・雑草発生前 ・0.125, 0.19, 0.25ml <200-300> ・土壌処理 対)クサブロック 0.12g<200-300>	継	継) 効果、薬害の確認
	ノシバ	適用性 新規	グランディ那須GC36 那須ナセー 南長野GC 新中国G研 西日本G研 (5)	[一年生雑草(科科を除く)] ・雑草発生前 ・0.125, 0.19, 0.25ml <200-300> ・土壌処理 対)クサブロック 0.12g<200-300>		
24. SYJ-197乳 新規化合物 5% [シンジエンタジヤパン]	ベントグ ラス	作用性 新規	宇都宮大学 新中国G研 (2)	[一年生雑草] ・雑草生育期 (3-5Lまで) ・0.1, 0.2, 0.3mL<150-250> ・茎葉処理	継	継) 効果、薬害の確認
	ベントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 (3)	[スズメノカタビラ] ・雑草生育期 (3-5Lまで) ・0.1, 0.2, 0.3mL<150-250> ・茎葉処理		

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量mL>/m ² ・処理方法	判 定	判定内容 アングラーインは拡大内容
1. CG-186マイクロエマルジョン トリネキサハクエチル 10.4% [シジエンタ ジャパン]	ハーマーミューダグラス	適用性 継続	浜松シサイト GC 花屋敷GC 新中国G研 (3)	[芽数増加, 根量増加] ・芝生育期 (生育旺盛期) ・0.05, 0.07, 0.1mL<100-200> ・茎葉処理 ・展着剤は加用しない	実・ 継	ハーマーミューダグラスへの拡大可能 実) [(コウライシハ、ケンタッキーブルーグラス、 ベントグラス、ハーマーミューダグラス) 芽数増加、 根量増加] ・芝生育期 ・コウライシハ; 0.035~0.075mL <100~200mL>. ケンタッキーブルーグラス; 0.05~0.15mL<100~200mL>. ベントグラス、ハーマーミューダグラス; 0.05 ~0.1mL <100~200mL> ・茎葉処理 継) ・倍量薬害試験での確認 (ハーマーミューダグラス) ・連用薬害試験での確認 (ハーマーミューダグラス) ・実証試験での確認 (ハーマーミューダグラス)
	ハーマーミューダグラス	適用性 継続	花屋敷GC 新中国G研 (2)	[草丈抑制による刈込軽減] ・芝生育期 (生育旺盛期) ・0.05, 0.07, 0.1mL<50>. 0.05, 0.07, 0.1mL<100> ・茎葉処理 ・展着剤は加用しない 対) プリモックス液剤 ・0.07mL<150-200>	実	前年どおり 実) [(コウライシハ、ノシハ、ベントグラス、 ケンタッキーブルーグラス、ハーマーミューダグラス) 生育抑制効果による刈込み軽減] ・芝生育期. ・ハーマーミューダグラス; 0.05~0.1mL <50~100mL>. 0.07~0.14mL<150~250mL> ・茎葉処理
2. KUH-833FHフロアブル プロヘキサシオンカルシウム塩 25% [理研グリーン、クミアイ化学工業]	コウライシハ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 西日本G研 (3)	[芽数増加] ・芝生育盛期 ・0.04, 0.06, 0.08mL<100-200> ・茎葉処理	実	コウライシハへの拡大可能 実) [(ベントグラス、コウライシハ) 芽数増加] ・芝生育期 ・0.04~0.06mL<100~200mL> ・茎葉処理 継) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシハ) ・連用薬害試験での確認 (コウライシハ) ・実証試験での確認 (コウライシハ)
	コウライシハ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 西日本G研 (3)	[草丈抑制による刈込軽減] ・芝生育盛期 ・0.04, 0.08mL<100> ・茎葉処理 対) ビオロックフロアブル 0.04mL<200>	実・ 継	コウライシハ、ノシハ、ケンタッキーブルーグラス での散布水量拡大可能 実) [(コウライシハ、ノシハ、ケンタッキーブルー グラス、ベントグラス) 生育抑制効果による刈込み軽減]

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量mL>/m ² ・ 処理方法	判 定	判定内容 アタゴライは拡大内容
KUH-833FHフロアブールつづき	ノシバ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 西日本G研 (3)	[草丈抑制による刈込軽減] ・ 芝生育盛期 ・ 0.04, 0.08mL<100> ・ 茎葉処理 対) ビオロックフロアブル0.04mL<200>		(ベントグラス) ・ 芝生育期 ・ 0.02~0.06mL<100~200mL> ・ 茎葉処理 (コライシバ、ノシバ) ・ 芝生育期 スボータグ等刈込み回数の多い 場合: 0.04~0.08mL→0.04~ 0.08mL <100~200mL> ラフ、公園、堤とう等刈込み回数 の少ない場合: 0.3~0.7mL <100~200mL> ・ 茎葉処理 (ケンタッキーブルグラス) ・ 芝生育期 ・ 0.04~0.08mL <100~200mL> ・ 茎葉処理 継) ・ 水量 100L 散布の年次変動の確認 認 (コライシバ、ノシバ、ケンタッキーブル グラス) ・ スボータグ等刈込み回数の多い 場面での年次変動の確認 (コライシ バ、ノシバ) ・ 低薬量 2 回処理における効果 の年次変動の確認 (コライシバ、ノ シバ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コライシ バ、ノシバ、ケンタッキーブルグ ラス、ベントグラス) ・ 実証試験での確認 (コライシバ、ノ シバ、ケンタッキーブルグラス、ベ ントグラス) ・ 翌年の芝に対する影響につい て (コライシバ、ノシバ、ケンタキ ーブルグラス、ベントグラス)
	ケンタッキー ブルグ ラス	適用性 新規	廣済堂札幌CC 東日本G研 宇都宮大学 (3)	[草丈抑制による刈込軽減] ・ 芝生育盛期 ・ 0.04, 0.08mL<100> ・ 茎葉処理 対) ビオロックフロアブル0.04mL<200>		
3. SYJ-2017フロアブル 既知化合物 21.5% [シンジェンジャパン]	ベントグ ラス	作用性 新規	宇都宮大学 新中国G研 (2)	[スズメノカタビラに対する出穂抑制及 び密度軽減] ・ 芝生育期、スズメノカタビラ出穂前 ・ 0.04, 0.08, 0.12mL<100-200> ・ 茎葉兼土壌処理	継	(継) 効果、薬害の確認
	ベントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 宇都宮大学 新中国G研 (4)	[スズメノカタビラに対する出穂抑制及 び密度軽減] ・ 芝生育期、スズメノカタビラ出穂前 ・ 0.04, 0.06, 0.08mL<100-200> ・ 茎葉兼土壌処理		